

## 第2投目：沈めて探った日



日本全国大荒れの天気が始まった2015年。1月某日、クロを狙って新年の初釣行でした。

西高東低の冬型気圧配置だったこの日、風は北西から強く吹き、波も4m…午前10時頃、メンバーと二人でゆっくり古仁屋港を出港しました。もちろん行けるのは奄美の東側海域しかありません。風裏となる真崎周辺に狙いを決め、他の釣り人が乗ってない名も無い磯に二人で渡礁です。

昨年、この磯周辺でクロが数多く釣れたという情報はありましたがどうやらこの場所ではないようです。初めて乗る磯、どのような釣りができるのか？まずは船着けのほうで撒き餌をし、海を観察しながら釣りを開始しました。

船着け側は沖にある岩からのサラシと手前からはね返るサラシがぶつかり、そこへゆっくりとした潮が右から入り込むように流れていました。仕掛けを入れると『あれ？ウキの浮力を間違ったかな？』と思うくらい、刺し餌から水中に吸い込まれるようにどんどん沈んでいきます。釣り始めて10分、目で確認できるタナにはチョウチョウオが2匹ぐらいしかいない海、浅いタナで餌が取られないため、撒き餌との同調を意識しながら仕掛けを沈め探っていきます。

次第に釣りのリズムが出来てきた時です。潮下に構えていた私に突然『バラバラッ！』とベールオープンにしていたリールからラインが吹っ飛ぶアタリがきました！竿の角度を立て直してベールを戻し、竿の弾力を活かしながら魚を浮かしにかかりますがけっこうな馬力で底へ底へと走ります。『こりゃ〜、サンノジやろ…』私は仲間に告げました。その直後、スーッと手前に誘導された魚…！サイズは45cmと満足できるものではありませんでしたが、深いタナで魚信を捕えた新年の嬉しい初クロだったのでした。

どうやらこの日のパターンは決まりました。その後は二人で仕掛けがより入り込む投入点を探しながらの釣りを続けます。サラシの強弱と潮の加減、道糸の置き方次第で仕掛けの入り方が1投ごとに変わる海、うまく刺し餌を魚のいるタナに届けた時にはオキナメジナ、イシガキダイ、フエダイと次々に良型の魚が当たるのです。その後、回収時間の午後5時頃まで粘りましたが、結局この日、二人でクロの釣果は1枚のみでした。

しかし、人間に確認できる水深に魚影が見えなくてもクロの可能性は十分にある。私自身、奄美でのクロ釣りで新たな引き出しが一つ増えた釣行になったことには間違いありません。

